

学部間共通外国語教育運営委員会

1 大学の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標

<p>(理念・目的等) A群・大学・学部等の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性 A群・大学・学部等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性</p>
<p>★現状(評価)</p> <p>・現状 学部間共通外国語教育運営委員会は、「『個』を強くする大学」という本学の教育理念に基づき、国際感覚を持った「個」を育成するための、会話科目を中心とした外国語科目を設置している。2004年度より名称を「学部間共通外国語教育」と変更し学部を超えて横断的に履修できる外国語科目を設置している。理念の周知については、冊子「学部間共通外国語シラバス」を作成し、全学生を対象に配布している。また、新年度ガイダンス時に設置科目の紹介や履修ルールの説明を行い、周知を図っている。</p> <p>・長所 英会話・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話に加え、ロシア語・スペイン語・ギリシア語・ラテン語・イタリア語・朝鮮語・アラビア語など、学部に設置されていない多彩な外国語科目を設置し、学生に多様な学習機会を提供している。クラスはレベル別であり、主にネイティブスピーカーを中心とした講師による授業が展開されており、実践的な会話力・語学力を修得できる。留学生対象の日本語科目も設置されている。会話科目だけではなく、英・独・仏の3語種については「資格英語」「資格ドイツ語」「資格フランス語」という留学・就職に必要な資格取得を目標とした科目も設置されている。学部横断で設置されている科目であるため、本学学生であれば3キャンパスのうちいずれの地区でも受講可能である。レベル別のクラスが開設されている。ネイティブスピーカーを中心とした講師陣を配置しており、学生のレベルや到達目標に合わせた科目を設置しており、学生に多様な学習機会を提供している。</p> <p>・問題点 現在会話科目を中心に科目を設置しているが、学生・時代のニーズにあった形での科目の提供・授業形態・履修ルールについて随時検討していく必要がある。</p>
<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方策 開講科目の充実・履修ルールについて委員会または委員会の元のワーキンググループにおいて、常時検討し、ニーズに合わせた柔軟に対応ができるようにする。</p>
<p>(理念・目的等の検証) C群・大学・学部等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況 C群・大学・学部等の理念・目的・教育目標の、社会との関わりの中での見直しの状況</p>
<p>★現状(評価)</p> <p>・現状 全教員対象の授業評価アンケートを実施するほか、夏期・春期に開講される集中講座において学生を対象にアンケートを実施している。結果は講座運営母体である「学部間共通外国語教育運営委員会」にて報告され、次回講座開講時の改善点として引き継いでいる。</p> <p>・長所 学生のニーズを直ちに適切に把握することができるため、改善点を把握しやすい</p> <p>・問題点 アンケート質問項目について、常に見直しをし、逐次改善を図ることが必要。</p>
<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方策 アンケート項目について、適切な質問項目の設定等、講座実施前にその都度点検を行う。</p>

1 大学の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標に基づいた特色ある取組み

(大学・学部における特色ある取組)

★現状(評価)

・現状

学部間共通外国語教育運営委員会は、「『個』を強くする大学」という本学の教育理念に基づき、国際感覚を持った「個」を育成するための、会話科目を中心とした外国語科目を設置している。2004年度より名称を「学部間共通外国語教育」と変更し、学部を超えて横断的に履修できる外国語科目を設置している。英会話・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話に加え、ロシア語・スペイン語・ギリシア語・ラテン語・イタリア語・朝鮮語・アラビア語など、学部には設置されていない多彩な外国語科目を設置し、学生に多様な学習機会を提供している。クラスはレベル別であり、主にネイティブスピーカーを中心とした講師による授業が展開されており、実践的な会話力・語学力を修得できる。留学生対象の日本語科目も設置されている。また、英・独・仏の3語種については「資格英語」「資格ドイツ語」「資格フランス語」を開講しており、留学・就職の際指標となる資格取得を目標とした科目の充実を図っている。

・長所

学部横断で設置されている科目であるため、学生に多様な学習機会を提供することができている。例えば、本学学生であれば3キャンパスのうちいずれの地区でも受講可能である。クラスはレベル別で、現在のレベル及び到達目標をシラバスにて明記しており、学生はレベルや到達目標に合わせて科目を選択できる。講師陣はネイティブスピーカーを中心に配置しているほか、AV設備の充実にも力を入れており、学生が自然な外国語に触れる機会を多く与えられる環境を整えている。

・問題点

現在は会話科目を中心に科目を設置しているが、学生・時代のニーズにあった形での科目・科目数・授業形態・履修ルールについて随時検討していく必要がある。また、学習効果測定の方法についても常に見直しをしていくことが必要である。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

開講科目の充実・履修ルールについて、委員会または委員会の元のワーキンググループにおいて、常時検討し、履修者や社会のニーズに合わせた柔軟に対応ができるようにする。

3 学士課程の教育内容・方法等

(1)教育課程等

(学部・学科等の教育課程)

★目的・目標

A群・学部・学科等の教育課程と各学部・学科等の理念・目的並びに学校教育法第52条、大学設置基準第19条との関連

A群・学部・学科等の理念・目的や教育目標との対応関係における、学士課程としてのカリキュラムの体系性

A群・教育課程における基礎教育、倫理性を培う教育の位置づけ

B群・「専攻に係る専門の学芸」を教授するための専門教育的授業科目とその学部・学科等の理念・目的、学問の体系性並びに学校教育法第52条との適合性

B群・一般教養的授業科目の編成における「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養」するための配慮の適切性

B群・外国語科目の編成における学部・学科等の理念・目的の実現への配慮と「国際化等の進展に適切に対応するため、外国語能力の育成」のための措置の適切性

B群・教育課程の開設授業科目、卒業所要総単位に占める専門教育的授業科目・一般教養的授業科目・外国語科目等の量的配分とその適切性、妥当性
 B群・基礎教育と教養教育の実施・運営のための責任体制の確立とその実践状況
 C群・グローバル化時代に対応させた教育、倫理性を培う教育、コミュニケーション能力等のスキルを涵養するための教育を実践している場合における、そうした教育の教養教育上の位置づけ
 C群・起業家的能力を涵養するための教育を実践している場合における、そうした教育の教育課程上の位置づけ
 C群・学生の心身の健康の保持・増進のための教育的配慮の状況

★現状(評価)

・現状

「『個』を強くする大学」という本学の教育理念に基づき、国際感覚を持った「個」を養うことを目的として「学部間共通外国語科目」を設置している。会話科目を中心に科目を開設しているが、学部に設置されていないラテン語・ギリシア語・アラビア語等も設置しており、学生に多様な学習機会を提供している。学部横断で設置されている科目であるため、本学学生であれば3キャンパスのうちいずれの地区でも受講可能である。クラスはレベル別に開設されており、学生は実力にあったレベルの授業を受講することで、高い学習効果を得ることができる。ネイティブスピーカーを中心とした講師陣を配置しており、学生のレベルや到達目標に合わせた科目を設置している。2006年度は138クラスが開講された。

長期休暇中の特別講座として、夏季休暇中には「集中講座」が英会話・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話の4語種が開講されるほか、協定校(カナダ・ヨーク大、イギリス・シェフィールド大)への短期語学研修留学も実施される。春期休暇中には英会話の合宿の集中講座が開講される。また、「国際理解講座」としてより国際理解を深めるための講座が英語圏・ドイツ語圏が設置されていたが、2006年度よりフランス語圏・中国語圏の2科目を開講し、各国の文化的・政治的特長について理解を深めることができる環境を整えた。資格試験への対応として「資格英語」「資格ドイツ語」「資格フランス語」の3科目を設置しており、留学や就職の際に必要なスキルを修得できる科目を設置している。これらの科目は学部によっては卒業要件単位に算入することが可能である。

・長所

学部横断で設置されている科目であるため、学生に多様な学習機会を提供している。集中講座についてはネイティブスピーカーを講師とし、少人数で集中的に行われる授業により、短期間で学習効果をあげることが可能である。

・問題点

現在会話科目を中心に科目を設置しているが、学生である学生や、社会のニーズにあった形での科目・科目数・授業形態・履修ルールについて随時検討していく必要がある。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

開講科目の内容の見直し・充実・履修ルールの改定等について、委員会または委員会の下ワーキンググループにおいて、常時検討し、学生や社会のニーズに合わせた柔軟に対応ができるようにする。

(カリキュラムにおける高・大の接続)

★目的・目標

A群・学生が後期中等教育から高等教育へ円滑に移行するために必要な導入教育の実施状況

★現状(評価)

・現状

本委員会は、付属校である明治高校に設置されている「自主選択講座」に中国語講師派遣の依頼を受け、週1回2コマ開講している。

・長所

高等教育への導入としての外国語教育を提供している。

★改善方策
・問題点に対する改善方策
(授業形態と単位の関係)
★目的・目標
A群・各授業科目の特徴・内容や履修形態との関係における、その各々の授業科目の単位計算方法の妥当性
★現状(評価)
・現状 本学は2004年度より半期制を実施しており、学部間共通外国語も大学のルールに則り半期1単位とする授業を開設している。長期休暇中に開講する集中講座については、授業時間を60時間確保し2単位を与えている。
・長所 集中講座については授業時間数の確保を厳格に行っている。
★改善方策
・問題点に対する改善方策
(単位互換、単位認定等)
★目的・目標
B群・国内外の大学等と単位互換を行っている大学にあつては、実施している単位互換方法の適切性 B群・大学以外の教育施設等での学修や入学前の既修得単位を単位認定している大学・学部等にあつては、実施している単位認定方法の適切性 B群・卒業所要総単位中、自大学・学部・学科等による認定単位数の割合 C群・海外の大学との学生交流協定の締結状況とそのカリキュラム上の位置づけ C群・発展途上国に対する教育支援を行っている場合における、そうした支援の適切性
★現状(評価)
・現状 夏期に実施される協定校(カナダ・ヨーク大、イギリス・シェフィールド大)への短期語学研修留学では、レベル別のクラスを開設している。ここで取得した単位は、学部によっては卒業要件単位として算入することを可能としている。留学先については2006年度中にイギリス・ケンブリッジ大学と協定を締結したので、07年度より学生の派遣を行う。また、春期に開講される英会話春期集中講座では協定校であるカナダ・ヨーク大学から教育実習生を招いて授業を展開しており、こちらで取得した単位も学部によって卒業要件単位とすることができる。
・長所 長期休暇中に開講される研修留学・及び集中講座は通常の授業開講期に、所属学部の履修状況等によって外国語科目を履修できない学生に対して学習機会を提供できる。少人数クラス・短期間での学習により、高い教育効果が期待できる。
・問題点 常により多くの学習機会の提供、及び、海外の他の協定校との学生交流において緊密な連携をとれるよう、検討する必要がある。

<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方策 現在のカリキュラムは堅持した上で、今後の発展性及び方向性について検討に着手する。</p>
<p>(開設授業科目における専・兼比率等)</p>
<p>★目的・目標</p>
<p>B群・全授業科目中、専任教員が担当する授業科目とその割合 B群・兼任教員等の教育課程への関与の状況</p>
<p>★現状(評価)</p> <p>・現状 2006年度に開講された138クラスのうち、専任教員が担当したのは3クラス。学部間共通外国語は会話科目を中心に設置しているため、ネイティブ・スピーカーである外国人兼任講師が授業の大半を担当している。</p> <p>・長所 ネイティブスピーカーによる自然な外国語に触れる機会を作ることで、高い教育効果が期待される。</p> <p>・問題点 兼任講師陣に対し本学の教育理念のさらなる徹底が必要。</p>
<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方策 今後もネイティブスピーカーを中心とした講師陣の充実を図る。教育理念の徹底について、現在は新年度始めに担当講師を対象に説明会を開催しているが、この会合の内容を充実させることで対応する。</p>
<p>(社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮)</p>
<p>★目的・目標</p>
<p>C群・社会人学生、外国人留学生、帰国生徒に対する教育課程編成上、教育指導上の配慮</p>
<p>★現状(評価)</p> <p>・現状 外国人留学生を対象に日本語科目を3科目設置している。</p> <p>・長所 2004年度より設置科目の内容を「オーラル」「文章」「総合」とし、科目内容をわかりやすくした。</p> <p>・問題点 本学の留学生はアジア圏からの留学生が多いため、英語未修者が存在する。彼らへの英語教育について対応を検討することが必要となってきた。</p>
<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方策 留学生教育の取り扱いについては各学部にて決定している。学部間共通外国語運営委員会としても各学部と協力の上、全学的なサポート体制が取れるような対応をしたい。</p>

(2) 教育方法等

(教育効果の測定)
★目的・目標
<p>B群・教育上の効果を測定するための方法の適切性 B群・教育効果や目標達成度及びそれらの測定方法に対する教員間の合意の確立状況 B群・教育効果を測定するシステム全体の機能的有効性を検証する仕組みの導入状況 B群・卒業生の進路状況 C群・教育効果の測定方法を開発する仕組みの導入状況 C群・教育効果の測定方法の有効性を検証する仕組みの導入状況 C群・教育効果の測定結果を基礎に、教育改善を行う仕組みの導入状況 C群・国際的、国内的に注目され評価されるような人材の輩出状況</p>
★現状(評価)
<p>・現状 全学的に実施されている授業評価アンケートに参加している。</p> <p>・長所 アンケートは統計的に処理され、各教員にフィードバックされるため、授業における改善点を教員各自が把握することができる。</p> <p>・問題点 施行後3年を経過しているため、アンケート内容について見直しが必要である部分がある。</p>
★改善方策
<p>・問題点に対する改善方策 全学的な委員会の下でアンケート質問項目・内容について再点検する。</p>
(厳格な成績評価の仕組み)
★目的・目標
<p>A群・履修科目登録の上限設定とその運用の適切性 A群・成績評価法、成績評価基準の適切性 B群・厳格な成績評価を行う仕組みの導入状況 B群・各年次及び卒業時の学生の質を検証・確保するための方途の適切性 C群・学生の学習意欲を刺激する仕組みの導入状況</p>
★現状(評価)
<p>・現状 履修については単位習得した科目については再履修を認めておらず、適切な単位付与ができるように上限を設定している。それぞれの科目の習得上限単位数の周知については「学部間共通外国語科目配当表」をシラバスにて公開している。成績評価基準については2004年度より全学的にGPA制度を導入しており、厳格な評価がなされている。また、会話科目という特性上、成績評価があいまいになることを防止するため、シラバス上にて成績評価基準を具体的に公表することを推進している。履修者が成績評価に疑義のある場合は、教員へ理由の説明を求めるための「成績照会票」を試験的に運用しており、評価に対する公正なフィードバックを行っている。</p> <p>・長所 大学の定める評価方法を遵守し、適切な修得上限単位数を設定、運用している。成績評価について、学生が公正なフィードバックを受けられる仕組みを整えている。</p>

<p>・問題点 会話科目については当該科目試験以外に客観的な効果を数値化することが困難なため、より適切な効果測定の方法の検討が必要。「成績照会票」は試験運用中なので、過去の運用成績の見直し含め正式運用のための手続きをとることが必要。</p>
<p>★改善方策</p>
<p>・問題点に対する改善方策 学習効果測定方法について、講座運営母体である「学部間共通外国語教育運営委員会」のもとに小委員会を立ち上げ、検討の端緒とする。「クレームシート」の運用について、本委員会の親委員会である教務部委員会にて検討依頼をし、正式運用とする。</p>
<p>(履修指導)</p>
<p>★目的・目標</p>
<p>A群・学生に対する履修指導の適切性 B群・オフィスアワーの制度化の状況 B群・留年者に対する教育上の配慮措置の適切性 C群・学習支援(アカデミック・ガイダンス)を恒常的に行うアドバイザー制度の導入状況 C群・科目等履修生、聴講生等に対する教育指導上の配慮の適切性</p>
<p>★現状(評価)</p>
<p>・現状 履修指導について、学部間共通外国語は取得単位数の扱いが各学部によって異なるため、各学部事務室による履修指導が行われているほか、独自のシラバスの他、学部シラバスにも取扱いについて掲載し、周知を図っている。科目等履修生・聴講生の受講も認めている。大学院生は「聴講生」として受講することを認めており、シラバスにて周知している。</p> <p>・長所 学生は各所属学部にて適切な履修指導を受けることができる。</p> <p>・問題点 学部によって取得単位科目を学部卒業要件単位に振替または参入することを認めているが、取扱が学部により異なるため、学生が混乱してしまうことがある。</p>
<p>★改善方策</p>
<p>・問題点に対する改善方策 問合せ先の周知徹底を図るとともに、窓口で適切な履修指導ができるよう、各学部と協力した体制作りをする。</p>
<p>(教育改善への組織的な取り組み)</p>
<p>★目的・目標</p>
<p>A群・学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための措置とその有効性 A群・シラバスの作成と活用状況 A群・学生による授業評価の活用状況 B群・FD活動に対する組織的取り組み状況の適切性 C群・FDの継続的实施を図る方途の適切性 C群・学生満足度調査の導入状況 C群・卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況 C群・雇用主による卒業生の実績を評価させる仕組みの導入状況 C群・教育評価の成果を教育改善に直結させるシステムの確立状況とその運用の適切性</p>

<p>★現状(評価)</p> <p>・現状 教育指導方法の改善促進について。新年度始めに担当講師に対する履修ルールの説明会を開催しており、本学の教育理念に基づいた教育が実施されるよう周知している。また同時に教員同士の交流の場を設け、授業改善について意見交換をするようにしている。 シラバスについては授業計画のほか、履修ルールや成績評価基準について明示をしており、学生に対し積極的に情報開示を行う媒体として活用している。 学生による授業評価の活用方法については全学的に実施されている授業評価アンケートのフィードバックを行っているが、改善への取組みは各教員にゆだねられている。また、夏期・春期に開講される集中講座についてアンケートを実施し、委員会の場で公表するほか、改善項目が明確になった点は次回講座に反映させている。</p> <p>・長所 改善点が判明した場合のフィードバックのための仕組みは完成している。</p> <p>・問題点 改善項目の調査については常にP D C Aのサイクルを活用していく。</p>
<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方策 教員が今まで以上に授業改善を意識するような場を設定するため、教員間の意見交換ができる機会を増やす。アンケート質問内容の見直しを行い、学生の要望が回答に適切に反映されるようにする。</p>
<p>(授業形態と授業方法の関係)</p>
<p>★目的・目標</p>
<p>B群・授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性 B群・マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性 B群・「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性</p>
<p>★現状(評価)</p> <p>・現状 授業形態について。会話科目が中心となるため、グレードⅠ(初級)は40名、グレードⅡ(中級)は25名、グレードⅢ(上級)は15名という履修人数制限を設けている。マルチメディアを活用した教育の導入状況について。本学の教室にはパソコン・ビデオ・プロジェクタ・カセット・ビデオデッキなどのプレゼン設備が標準装備されており、「生きた外国語」習得のために各教員が工夫を凝らしたマルチメディア教材を活用した授業を展開している。</p> <p>・長所 レベル別に適切な人数で授業が展開できるため、より高い教育効果が期待できる。教育機会を公平に提供するため、履修希望者の多い和泉地区開講の英会話科目【英会話Ⅰ】について、事前抽選を行い、履修者を決定している。</p> <p>・問題点 初級の履修希望者が多く、希望の科目を履修できない学生がいる。また、中・上級と継続的に学習を進める学生が少ないため、科目数及び開講地区について、適切な配置を検討する必要がある。</p>
<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方策 学生の履修希望を的確に把握し、各語種各科目の開講科目数について毎年見直しをすることとする。</p>

(3) 国内外における教育研究交流

★目的・目標
B群・国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性 B群・国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 C群・外国人教員の受け入れ体制の整備状況
★現状(評価)
・現状 外国人教員の受け入れ態勢の整備状況について。外国人教員の採用に当たっては、綿密な授業計画に基づき、運営母体である学部間共通外国語教育運営委員会にて審議承認された後、各学部教授会及び学部長会の議を経て採用が決定する。
・長所 大学の教員任用基準に基づき採用がされるので、立案に基づいた公正な採用計画が可能であり、質の高い教員を採用することができる。
★改善方策
・問題点に対する改善方策

4 学生の受け入れ

★目的・目標
(学生募集方法、入学者選抜方法)
A群・大学・学部等の学生募集の方法、入学者選抜方法、殊に複数の入学者選抜方法を採用している場合には、その各々の選抜方法の位置づけ等の適切性
★現状(評価)
・現状 外国人留学生を対象に日本語科目を3科目設置している。
・長所 2004年度より設置科目の内容を「オーラル」「文章」「総合」とし、科目内容をわかりやすくした。
★改善方策
・問題点に対する改善方策

5 教員組織

★目的・目標
(教員組織)

- A群・学部・学科等の理念・目的並びに教育課程の種類・性格、学生数との関係における当該学部の教員組織の適切性
- A群・主要な授業科目への専任教員の配置状況
- A群・教員組織における専任、兼任の比率の適切性
- A群・教員組織の年齢構成の適切性
- B群・教育課程編成の目的を具体的に実現するための教員間における連絡調整の状況とその妥当性
- C群・教員組織における社会人の受け入れ状況
- C群・教員組織における外国人研究者の受け入れ状況
- C群・教員組織における女性教員の占める割合

★現状(評価)

- ・現状
 会話科目が中心となることから、2006年度開講科目の大半をネイティブスピーカーの外国人兼任講師が担当している。
- ・長所
 ネイティブスピーカーによる授業は、高い教育効果が期待できる。
- ・問題点
 それぞれの語種を取りまとめる専任教員と兼任教員とのコミュニケーションをとる機会が少ないため、教育現場の状況を委員会として把握できるまで時間がかかってしまう。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策
 運営母体である学部間共通外国語教育運営委員会の委員は全て専任教員である。授業担当者と運営委員会委員の交流の場を設定し、問題点は逐次対応できるよう連携を深める。

(教育研究支援職員)

- A群・実験・実習を伴う教育、外国語教育、情報処理関連教育等を実施するための人的補助体制の整備状況と人員配置の適切性
- B群・教員と教育研究支援職員との間の連携・協力関係の適切性
- C群・ティーチング・アシスタントの制度化の状況とその活用の適切性

★現状(評価)

- ・現状
 英会話春期集中講座は合宿形式で講義を行うが、TAを配置し、授業補助に当たらせている。
- ・長所
 教育支援だけでなく、学生の先輩役として与える教育効果は大きい。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

(教員の募集・任免・昇格に対する基準・手続)

- A群・教員の募集・任免・昇格に関する基準・手続の内容とその運用の適切性
- B群・教員選考基準と手続の明確化
- B群・教員選考手続における公募制の導入状況とその運用の適切性
- C群・任期制等を含む、教員の適切な流動化を促進させるための措置の導入状況

★現状(評価)

- ・現状
 運営母体である学部間共通外国語教育運営委員会に任用権限はない。大学の定めるところの任用基準によ

った採用を行っている。

- ・長所

大学の定めるところの任用基準に基づいているので、公正・適切な採用が可能である。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策